

令和5年度 学力向上プラン

学校名 中央区立有馬小学校

学校の教育目標

自ら学ぶ子・思いやりのある子・心とからだの健康な子

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- ①基礎的・基本的な「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」・「学びに向かう力、人間性等」をバランス良く育成し、学力の定着を目指す。
- ・算数習熟度別少人数指導の充実 ・理科の実験・観察を基にした考察の充実 ・個に応じた指導の充実
- ②「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
- ・学び合いのある授業づくり ・言語活動の充実
- ③ICT機器を活用した指導の充実を図る。
- ・課題解決能力、情報処理能力を培うためのICT機器を活用した授業づくり ・ドリルソフトの活用

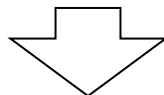
令和5年度「学習力サポートテスト」や令和4年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<p>○「令和5年度学習力サポートテスト」では、正答率は全国の平均を4年は12.8ポイント、5年は11.3ポイント、6年は12.8ポイント上回っている。区の平均値も4年は3.5ポイント、5年は2.2ポイント、6年は3.6ポイント上回っている。また、主体的に学習に取り組む態度は、4年・5年・6年ともに、全国平均を20ポイント以上、上回っている。</p> <p>▲全国の正答率を上回っているものの、4年・5年は、「物語文の読み取り」6年は「説明文の読み取り」が、若干低い。</p>	<p>○国語辞典を手元におき、語彙力の向上を図っている。漢字の反復学習では、タブレット端末を活用し、定着を図っている。朝の読書タイムで読書に親しむ習慣が身に付いている。</p> <p>▲朝の読書タイムや読書月間の取り組みで、様々なジャンルの本に興味をもてるように指導していく。</p>
算数	<p>○「令和5年度学習力サポートテスト」では、正答率は全国の平均を4年は11.7ポイント、5年は9.4ポイント、6年は16.5ポイント上回っている。区の平均値も4年は0.8ポイント、5年生は0.7ポイント、6年は3.7ポイント上回っている。また、主体的に学習に取り組む態度は、4年・5年・6年ともに、全国平均を10ポイント以上、上回っている。</p> <p>▲全国の正答率を上回っているものの、4年は「長さ・重さ」5年は「角の大きさ」の図形領域が若干低い。また、「数と計算」領域では、4年、5年は、「小数のしくみ」6年は「分数の計算」が若干低い。</p>	<p>○習熟度別少人数指導や放課後の「ステップアップ教室」での補充学習の徹底により、基礎的な学力が身に付き、個に応じた指導の効果が表れている。</p> <p>▲「図形」では、長さや重さの単位の換算や分度器の使い方が十分定着していない。「数と計算」では、小数のしくみや通分をす</p>

		<p>る分数の計算が十分定着していない。タブレット端末の活用や放課後の「ステップアップ教室」で個別指導を行っている。</p>
社 会	<p>○「令和5年度学習力サポートテスト」では、正答率は全国の平均を4年は6.2ポイント、5年は、14.3ポイント、6年は12.4ポイント上回っている。区の平均値も5年は1.8ポイント、6年は2.9ポイント上回っている。</p> <p>▲4年は0.2ポイント区の平均値を下回っている。観点別正答率で見ると、「思考・判断・表現」が、1.2ポイント区の平均値を下回っている。</p> <p>▲資料を適切に読み取り、資料から考えたり、調べたことを既存の知識と比較、関連付けて思考したりすることに課題がある。</p>	<p>○調べ学習や单元ごとにまとめの活動を行ったことで主体的に学習する姿勢につながり、習得した知識を生かして、学びを深めることができた。</p> <p>▲コロナ禍で制限があり、校外に出て、見学や体験する機会が少なかったことが原因として考えられる。</p> <p>▲資料の読み取り方や調べたことをまとめる具体的な指導に課題がある。</p>
理 科	<p>○「令和5年度学習力サポートテスト」では、正答率は全国の平均を4年は9.3ポイント、5年は10.7ポイント、6年は11.7ポイント上回っている。区の平均値も4年は、4.0ポイント、5年は4.5ポイント、6年は6.8ポイント上回っている。また、4年・5年・6年ともに、主体的に学習に取り組む態度は、全国平均を10ポイント以上、上回っている。</p> <p>▲4年の「植物の育ち方」や5年の「1年間の動物のようす」では、全国正答率を若干下回っている。</p>	<p>○理科室が整備され、観察や実験が計画的に行われてきたため、興味・関心をもち、主体的に学習に取り組んできた成果が見られる。</p> <p>▲植物や動物について、1年間継続して観察することが環境的に厳しいことが原因として考えられる。</p>
英 語	<p>○「令和5年度学習力サポートテスト」では、正答率は全国の平均を6.6ポイント、区平均値を2.5ポイント上回っている。</p> <p>○英語に関心をもち、楽しみながら意欲的に学習に取り組むことができている。</p> <p>▲アルファベットの書きや日常会話の聞き取りに課題がある。</p>	<p>○ALTと打ち合わせを行い、連携を図りながら、計画的に授業を進めることができている。</p> <p>▲アルファベットの大文字と小文字を区別して書く時間を十分に確保できていない。リスニング力を高める授業改善が必要である。</p>

<p>体 育</p>	<p>○「令和5年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」では、全学年、男女ともに「反復横とび」「立ち幅とび」で、全国、都の平均を上回っている。 ▲全学年、男女ともに「握力」「ソフトボール投げ」で全国の平均を下回っている。特に「握力」は区や都の平均も下回っている。 ▲1年、2年、4年、5年、6年の男子、1年、2年、4年、5年、6年の女子の「20mシャトルラン」では、全国の平均を下回っている。また、1年生は多くの種目で区、都、全国の平均を下回る結果となっている。</p>	<p>○マイスクールスポーツで、縄跳びに取り組んでいる成果が表れている。 ▲体力テストの行い方を理解できるように、練習時間を十分に確保する。普段から「握力」や「ソフトボール投げ」につながるに運動を日常的に取り入れていく。</p>
<p>学力向上に向けた視点</p>		<p>年度末までの目標及び指標</p>
<p>① 各教科</p>	<p>国語</p>	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を4ポイント上回るようにする。 ○読むことについて、すべての実施学年で区の平均を上回るようにする。</p>
<p></p>	<p>算数</p>	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を3ポイント上回るようにする。 ○図形領域について、すべての実施学年で区の平均を上回るようにする。</p>
<p></p>	<p>社会</p>	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を3ポイント上回るようにする。 ○資料活用能力を図る問題について、全ての実施学年で、区の平均を上回るようにする。</p>
<p></p>	<p>理科</p>	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を5ポイント上回るようにする。 ○植物の育ち方や動物の様子に関する問題について、全ての実施学年で全国の平均を上回るようにする。</p>
<p></p>	<p>英語</p>	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を3ポイント上回るようにする。 ○「アルファベットの書き」や「日常会話の聞き取り」の問題について、全国の平均を上回るようにする。</p>
<p></p>	<p>体育</p>	<p>○令和6年度体力調査のすべての実施学年で、体力調査で各項目平均0.5ポイント上昇を目指す。</p>
<p>② 授業改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等の「見方・考え方」を全教師が理解(100%)し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行う。また、指導計画に基づき、すべての単元(100%)で意図的に「学び合い」の場、自分の考えをより深く考察する場を設定する。 児童の主体的な学習態度を育てるために、全学年においてタブレット端末を一日1時間以上使用し、個別学習、グループ学習、一斉学習で個の学びが深まる授業展開の工夫を行い、より効果的な活用方法を校内で検討し、授業改善につなげる。 	
<p>③ 家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開、保護者会、個人面談、学校便り、ホームページ、Google Classroom等を活用し、積極的に情報を発信したり、家庭と十分に連絡を取り合ったりして、教育活動の理解を図る。 年2回の児童・保護者による学校評価アンケートを実施し、教育活 	

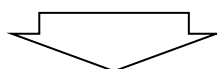
	<p>動の改善を図るとともに、学校からの家庭への情報発信への肯定度を85%にする。</p>
④ 体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・マイスクールスポーツとして、全児童が休み時間や朝の時間に一定期間、縄跳びなどの共通した取組を行い、特色ある教育の推進を図ると共に、体力の向上や運動することへの意識の高まりにつなげる。



【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話の聞き方や発表の仕方の約束（学習の7つの約束）の徹底を図る。 ・朝読書の時間や図書の間では、読書の幅を広げるようにする。 ・学習で出てきた文章を丁寧に読み取る機会を作り、文章の内容を正しく読み取ることができるようにする。また、問われていることに対して、どのように答えるべきか、演習を重ねる。 ・漢字ドリルやミニテスト等を行い、反復練習を行うことで、へんやつくりなどを正しく覚えられるようにする。また、文章を書く際には、これまでに学習した漢字を正しく使うように指導するとともに、辞書を手元に置き、分からない言葉や漢字は自分で調べる習慣をつけさせる。 ・タブレット端末のドリルソフトを活用し、習熟を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・単元に入る前に、既習事項を確認した上で、課題に取り組みさせていく。また、演算決定の際、図や数直線を活用する場面を設定していく。数直線の見方やとらえ方についても指導していく。 ・自分の思考や友達の意見を取り入れたノート書き方を指導する。 ・東京ベーシック・ドリルの診断テストを活用して児童の課題を明確にし、算数ステップアップ教室で補習することで既習した学習の習熟を図る。 ・タブレット端末のドリルソフトを活用し、習熟を図る。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・導入では、社会的事象から課題をつかみ学習問題を立て、その解決のために教科書や資料集の資料を活用し、一つの資料から、さまざまな情報を読み取る活動をし、そこから考えられることを話し合う学習展開を取り入れる。 ・実際に見学をしたり、タブレット端末を効果的に活用したりして、意欲的に調べ学習ができるようにする。 ・多くの情報を取捨選択し、整理してまとめる活動を通して、学習内容を自分の言葉で説明や表現ができるようにする。 ・タブレット端末のドリルソフトを活用し、習熟を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題に対して、予想や実験方法を考える場面を丁寧に扱い、一人一人が実験器具を操作できる場を意図的に設定する。 ・既習の実験・観察の過程や結果を根拠として、予想を立てたり、実験・観察の過程や結果から考察したことを記述したりするなど、思考を深めるノートの書き方を指導する。 ・タブレット端末を活用し、植物の観察等を継続的に行い、一年間の様子が分かるようにしていく。 ・タブレット端末のドリルソフトを活用し、習熟を図る。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとのコミュニケーションを取り入れた授業を展開することで、それぞれの場面の受け答えについてより深く理解できるようにしていく。 ・学習したことを生かす場として、ALTと児童の1対1のアセスメントテストを実施する。 ・提示する絵カードに文字を入れ、文字に親しむことができるように工夫する。 ・アルファベットを正しく書く時間を定期的に取り入れ、大文字と小文字の違いの定着を図る。

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の体力調査の結果を分析したものを学年で共通理解し、意図的・計画的に苦手な分野を強化する運動を取り入れる。(特に、握力やソフトボール投げにつながる運動) ・児童に昨年度の記録から明確な目標を立て運動に取り組ませることでより高い意識で取り組むようにする。 ・体育授業の準備運動の中で、継続して握力の運動に取り組んだり、学校行事と連携させ目標を明確にした長縄跳び、短縄跳びや持久走に取り組んだりすることで、基礎体力向上を図る。
<p>②授業改善</p>	
<p>取組Ⅰ</p>	<p>主体的・対話的で深い学びを通しての授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の授業の中で言語活動を充実させるとともに、「学び合い」の時間を位置付け、発表、対話、討論、話し合い等を意図的・計画的に発達段階に応じて取り入れる。特に、生活科や理科の学習では、理科の実験・観察を基にした考察の充実を図るため、継続的な観察活動を実施するとともに、観察・実験結果からより深く考察するための学び合いの場を意図的に設定する。
<p>取組Ⅱ</p>	<p>基礎的・基本的な学力の定着の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科では、1・2年生は担任と都講師で学級数+1グループ、3～6年生は担任と少人数指導教員、区講師2名により、3学級の学年は6展開、4学級の学年は2学級ずつ4展開とし、全学年習熟度別少人数指導を行う。 ・タブレット端末等のICT機器を効果的に活用して児童の主体的な学習を促し、個に応じた指導につなげていく。ドリルソフトを活用して学習の定着を図る。
<p>③家庭との連携</p>	
<p>取組Ⅰ</p>	<p>家庭への情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校便りや学年便り、個人面談、保護者会等を活用し、積極的に情報発信をGoogle Classroomを活用して行う。 ・保護者会等で、目指す児童像を示すとともに、学習の定着に向けた家庭学習への取組についての理解を求める。
<p>取組Ⅱ</p>	<p>学校アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校公開時のアンケートによる授業評価、年2回の児童・保護者による学校評価アンケートを実施する。 ・保護者からの要望・改善点等を早期解決し、信頼関係を構築する。
<p>④体力向上</p>	
<p>取組Ⅰ</p>	<p>マイスクールスポーツの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内持久走大会（ARIMA RUN）に向けて、体育の授業及び休み時間に時間走を全校で取り組む。 ・縄跳びカードを全校共通で年間を通して取り組む。
<p>取組Ⅱ</p>	<p>体育授業の充実と継続的な体力アップを目指した取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力調査の結果を基に、体力向上に関する運動例から各学級の実態に合わせて授業で継続的に取り組む。 ・休み時間に多様な運動に取り組むことができるように環境を整備する。特にボールを投げる運動に児童が取り組むことができるようにする。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の中で意図的に図書資料を活用する場面を設けることで、児童の読書の幅を広げることができた。 ・ 新出漢字の書き順や意味を丁寧に指導したり漢字のミニテストを継続的に行ったりしたことで、漢字の定着を図ることができた。 ・ 読み取ったことを感想にまとめる場面や制限字数内で要約をする場面、文章の構成の仕方を考えさせる場面等で、タブレット端末を有効に活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書の幅を意図的に広げることができたが、日常の読書活動にまで生かされていない児童もいるため、児童の読書傾向を把握し、声をかけていく。 ・ 長文を最後まで読み続けることができるように、読書活動の充実を図る。 ・ 漢字の基礎基本は定着しているものの、既習した漢字を日常的に使うことができていない児童がいる。既習した漢字を使って文章を書く習慣が身に付くように指導する。
	算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別少人数指導や放課後の「ステップアップ教室」での補習学習を徹底したことにより、個に応じた指導ができ、基礎学力の定着を図ることができた。 ・ 図形の学習等で、ICT 機器を効果的に活用することで、児童の思考を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年が上がるにつれて、基礎基本の定着の差が大きい。定着度に応じて、児童への個別の声かけや補習教室等で支援をしていく。 ・ 一人一人の考えを全体に共有する場面で、ICT 機器を効果的に活用できるようにする。 ・ 図形領域に対して苦手意識のある児童がいるため、構成したり分解したり移動したりするなど、実際に図形の操作をする場面を設け、理解を深めるようにする。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の導入で児童が興味をもったり、疑問を抱いたりするような社会的事象を提示したことで、児童の学習意欲を高めることができた。 ・ 実際に見学をしたり、タブレット端末を効果的に活用したりすることにより、意欲的に調べ学習を行うことができた。 ・ 学習内容をまとめる際に、自分の言葉で説明したり表現したりする場を設定することで、全体で共有するとともに、一人一人の思考を深めることができた。タブレット端末を活用して学習のまとめをすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べ学習でタブレット端末を活用する際、自由に調べさせるのではなく、適切な情報を教師が取捨選択して児童に与えるようにしていく。 ・ 学年が上がるにつれて、習得する知識も多くなるため、暗記のみに終始する児童もいる。知識同士を関連付け、学習内容にどのようなつながりがあるかを確認していく必要がある。 ・ ドリルソフトの活用が難しかったため、他機能も含めて、タブレットの有効活用を検討する。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実物を観察したり、理科支援員との連携で一人一人が実験器具を操作できる場を設定したことにより、体験的な活動を通して興味・関心を高め、知識の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植物や生き物の観察等、自然事象と体験的に触れ合う機会を十分にとることができなかった。隣接している公園や屋上の畑を効果的に活用し、観察や体験を

		<p>を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習問題作りや学習問題に対する予想を考えさせる場面を丁寧に指導したことで、理科の問題解決学習の流れにそって学習に取り組むことができた。 	<p>さらに充実させる。また、タブレットを用いた継続的な観察ができるように、使用するアプリやソフトを検討し、手軽に使用できる環境を整えていく。</p>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> 文字の入った絵カードを活用することで、文字に親しむことができた。 単語や文章の見本を見ながら、書き写す活動を繰り返し行ったことで、正しくアルファベットを書ける児童が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットの学習を継続して行い、大文字、小文字の定着を図る。 単語や文章を読むことが苦手な児童がいるため、絵カードなどで繰り返し、声に出して読む場面を設ける。
	体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の体力テストの記録を活用し、目標を立てて取り組むことができた。 ティールールやバスケットボールでは、ボール操作の技能を身に付けるために、ルールを工夫して取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストまでの期間が短く、十分に練習をして取り組むことができなかった。4月当初から体力テストに向けて技能向上に向けて計画的に指導するようにする。
② 授業改善		<ul style="list-style-type: none"> 各教科で様々な言語活動を設定したり、ペアやグループ等での学び合いの場を設けたりすることができ、一人一人の考えを深めることができた。 習熟度別少人数指導により、算数の基礎学力が定着した。 タブレット端末を有効活用し、反復練習や発表場面での共有等で効果的に活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話やグループでの話し合いの際の話し型や手順等を具体的に指導していく必要がある。 学習場面に応じて、ノートとタブレット端末をどのように使い分けていくことが効果的なのか検討していく。 カリキュラムマネジメントの視点に立ち、各教科の学びを横断的に考えていく必要がある。
③ 家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> 保護者会や個人面談を通して、情報を共有し、家庭との連携を図ることができた。個人面談では、各教科の到達度や課題について各家庭へ伝えることができた。 欠席児童に対して、電話連絡に加え、Google classroomを活用して連絡をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> tetoruやGoogle classroom等、便利なツールを有効活用することも大切であるが、保護者と直接話すことにより、信頼関係を結び、家庭との連携を図ることも大切にしていく。
⑤ 体力向上		<ul style="list-style-type: none"> 「校内持久走大会」や「縄跳び」を全校で取り組むことにより、体力の向上につながった。それぞれの取り組みでは、目標を設定することで、積極的に練習に励む児童が増えた。 休み時間にボール運動を加え、多様な運動に取り組めるように環境整備を行ったことにより、ボールを投げる機会が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「縄跳び」については、通年で取り組むようにする。 休み時間の遊びについて、さらに多様な遊びができるように、環境を整える。